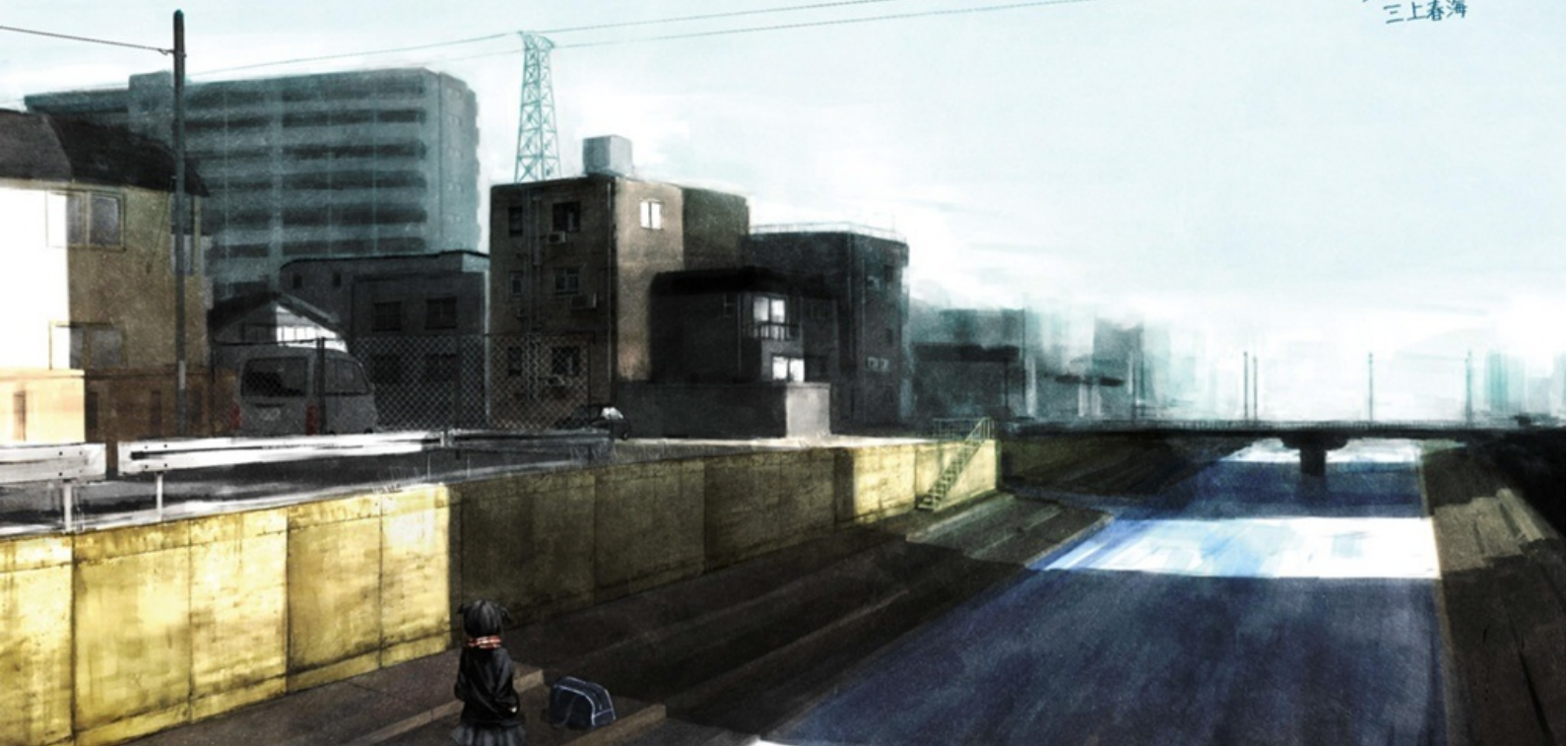


さよならが来るのを待っている君へ

鈴木ちはね  
三上春海



さよならが来るのを待っている君へ

鈴木ちはね・三上春海歌集



無限遠点 鈴木ちはね

郵便が来るのを待っている君へ  
鈴木ちはね学校短歌集  
やがて失われるもの  
遠ざかる嬌声  
カンバセーション・ピース  
あざやか



さよなら装置 三上春海

透明度  
冬期教室  
ぐだぼよ  
戦争  
あなた

無限遠点

鈴木ちはね

君は知らないだろうが  
雪の降らない街にも冬が来て  
そしてそれはどうしようもなく冬なのだよ



郵便が来るのを待っている君へ

*A talent of summer*



「北海道」からはじまるきみの住所にときめく葉書初夏のポストへ

強くなりたかった野分

古タイヤ

夏の才能

ひとひら  
一枚の海

『郵便が来るのを待っている君へ』まったくひどい書き出しである



# 鈴木ちはね学校短歌集

*School short songs*

**【せんせいがこわれた日】**

「せんせいがみなさんにおしえたことはぜんぶまちがいでした  
さよなら」

正直に手を挙げなさいほんとうは誰がぼくらの先生なんだ

先生がもし正常に見えるなら近視などの疑いがあります

先生は壊れてしまい教室には春だけが取り残されました

先生の替わりはいくらでもいるから  
ぼくたちもまたそうであるから

## 【合唱コンクール連続殺人事件】

合唱コン推進派の先生たちはひとりずつ殺されてゆきました



合唱をいちばん愛する先生が連続殺人犯人でした

合唱を愛するゆえの犯行と断定  
けれど罪は罪です

【放課後の速さはどれくらい】

透明な水滴している放課後へきみは指先からおちてゆく

差別用語が生れては消えてゆく踊場を見た赤い夕暮

学校は坂の上  
だから放課後は風のはやさで駆け下りてゆく

軽々とやってのけるにちがいない中村君は棒高跳を

唐突に未来のおれが現れてもっとはっきり伝えろと言う

ふとあれは愛の告白だったかと思う十年後の委員長

校則を破ってまで青春をする必要がほんとうにあったの？

サイキック少年走る放課後が浪費されてくのと等速で

【さよならコスモ先生】

先生はトイレじゃありません心はいまでもコスモナウトですから

泣き虫で板書のへたな先生はそれでもコスモナウトだったよ

コスモとか陰で呼んでたけどあいつわりといいやつだったと思う

先生は青空高くのぼってく  
きっとコスモナウトになれるよ



【はずむ わかい】

義務教育（スタンプを押してゆくように終わっていった春のできごと）

あざやかに黒板消しをすべらせて「2組最高」消す用務員



# やがて失われるもの

*Sayonara train*

最新の電車もいつか古くなるそういう星で暮しています

絶滅を許されずまだそこにいる動物園の池のきらめき

きらめきが誰のものでもないように観覧車には行先が無い

交されることのなかった挨拶が染みついでゆく無垢の食卓

地下駅の階段でグリコの遊びをする母子の距離はいま十二段

終りゆく町に聳える観覧車（観覧車はどうやって解体するのだろう）

枕木に寝そべって星を見てたねサヨウナラ電車の過ぎたあと





# 遠ざかる嬌声

*Vanishing stories*

潮騒のようにやさしく語られる童話の意味をきみは知らない

「中野きた。案外しょぼい」というきみを迎えにバスで210円

どぶねずみみたいにうつくしくなりたいといわれる  
どぶねずみのきもち

日能研バッグたそがれをかき分けてどこへ行くんだここは東京

赤鬼の泣いた理由をわからない子供を医者へ診せに行った日

思いでの消失点の向こうへと、とおく、とおく、遠ざかる声

軽業師そうべえいつか何もかも忘れてしまう  
けど大丈夫



# カンバセーション・ピース

*Conversation piece*



父さんがわたしたちのために捨てたものらを拾いあつめる浜辺

昔からなんか変だと思ってた  
祖母が二種類もいるなんて

愛されることのなかったハムスター  
砂丘に埋めて帰る夏の日

着火マン誇らしげに手に持つ兄は子供っぽくてでも兄だった

遅くまで働いていてえらいねとただ一度でも言えばよかった

憂鬱なものになっても家族旅行は家族旅行でありつづけた

残念な電車とバスを乗り継いで残念な海へ辿り着くまで

一年にたった二日のためだけに皿に囲まれ暮らす祖父母は

軍服の男ロシアへ帰ると言う  
花火ついでの送り火を焚く

知らぬ間に小さくなっていた母が家族写真を撮ろうとせがむ

変顔に命をかける姪っ子が今日会心の集合写真



あざやか

*Azayaka*



あざやかに学級崩壊してるけど野球部員は同じ髪型

ジェットラグ

自由恋愛

怪文書飛び交う夏の暮れも

あざやか

クマムシの蘇生あざやか愛されることはなくても君がすきだよ

# さよなら装置

三上春海



雪のない冬をしらないほくだから

すべての愛はすれちがうから

透明度

透明度 私のいない湖を見つめ続ける私の瞳

ほんとうは誰かになってみたかったゆっくりとレリーフが砕けちる

誰が僕をゆるすのだろう校庭で待宵草をにぎりつぶした



意味もなくすべてを壊してまわりたいすべてにぼくはふくまれてない

火をともしように眠れなかった夜、ごめんね、全部間違っていた

神様、 明日、 世界を、 終わらせたり、

または、

終わらせなかったり、 して、 ください

聞こえなくなっていくほど美しいせかいに引いたラインマーカ―

ほしぞらが猫になったら会いにくる恋人、ピエロ、劇作家たち

透明になった蛍がねむる夜（踏みつぶしたら歩いてしまう）

海よりも海であろうとしたひとが音楽として思い出される

さよならを最短距離で架橋する装置になった春風よ、吹け

なみだは水ですか  
水です

さよならと勿忘草に告げられている



# 冬期教室



教室で急に泣きたくなったのは飛べなくなったイカロスのせい

すべて違う、幾何学模様をなぞるからいけないことに気づいてしまう

冬景色、ダルマストーブ、マフラーをなくした私たちのおしまい

「先生はコスモナウトになれなくて泣いたことすらあるんだ実は」

「先生が黒板消しをひくリズムゆあーん ゆよーん ゆやゆよん、だよ」

先生がひとみに触れる 夏をみる 赦されているような気がする

湯気みたい（泣いてしまった教室で眼鏡にうつる私の、声）

冬景色、ダルマストーブ、マフラーを巻いてくれないけれど好きです

隔たり、につつまれている放課後の窓一面をめざすゆびさき



ぐだぽよ



「不思議じゃない？ A. D. 1の前が0じゃなくてB. C. 1だってこと」

民主主義みんなしゅしゅぎと歌えます 危険な思想を抱いています

A E D マスター 目指せ女の子  
赤い体育館で心臓

店頭のマネキンの意味わからずに怯えてた夏の朝、蝉の羽化

あの夏の「あの」に引かれた傍線部Aの気持ちを述べよ（10点）

恋人たちもやがていつかは服を脱ぐ\*手つき鮮やかマネキンを剥く

アルバイト禁止条例無視をしてしまう彼女に憧れていた

ふみこなのかあやこなのかよくわからない文子に箸をもらいわすれる

先天的給食当番たちが今日じつに完璧すぎる配膳

新明解国語辞典第八版で下線をひいたぐだぼよあはれ

先生はロックンロールしてたけど中村さんは東大にゆく



戦争



人工の衛星砕け散るけれど（戦争だけど）すごくきれいだ

先輩の holocaust は夏の日の午後アリの巣に刺したゴムホース

生きなければ死んでしまうよ からからとアルミニウムを投げ込んでいる

「それならばやるしかないね」ガソリンをメガネケースに注ぎ笑った

ヨハネ書はすべて偽物であること 僕たちもまたそうであること

「ミサイルが飛んで来るけど僕たちは楽しいことをして笑おうよ」

火星からきた君のため地球服を作るガラス越しにキスをする

「もうばか」といって緑の皮膚をした疫病患者はとけてしまった

「虹がいま死んでいる」って鳩からのテレパスひびく  
極東は四時

世界人類みんな絶滅したけれど雲量は7だから晴れです

美しく見えるものだけ美しい 海岸に残された指先



あなた



喩えるとあなたの声は水でしたぜんぶにじんってしまうきらめき

押しのけた水の分だけ軽くなる夏の教室 愛の告白

「冷えてるね」

ねぐせばかりの歌うたう あなた と

すこしずつ おちてゆく

「キスをして。あなたの好きな食べ物を一つ残らず言い当てるから」

きらめいて、全部ほどけてしまうほどなにもなかった光、さざなみ

マンモスのいのちが眠りから覚めるようにわたしはひとりと気づく

木漏れ日になったことばはすりぬけて両手からこぼれおちていく

あの夏のあなたのいない坂道をひとりでのぼりきってしまうね

流れ去るものにおおきく手をふって言うべきことを言うべきだった

本当はすべて未来のことだったあなたの夏を思い出すから



● 著者



鈴木ちはね（すずちう）：  
静岡県生、東京都在住。



三上春海（カミハル）：  
西暦 年生。  
好きになりたいものは  
ほど好きでもないです。

出身、 在住。  
、嫌いなものは 。 と はそれ

● 編集後記

はじめての同人誌でした。みなさん、特にすずちうさんとあいあさん、ありがとうございました。（カ） 表紙と目次のイラストを担当させていただいたものです。このような機会をつくってくださったすずちうさんとかみはるさんとtwitterとskypeをつくった人に感謝します。（あ） おそらくいろいろな偶然や必然があっただけでこういう本ができたと思います。お手に取っていただき本当に有難うございます。（す）



# さよならが来るのを待っている君へ

平成24年5月6日 発行

短歌

鈴木ちはね (twitter:@suzuchiu)

ブログ：風の跡地 <http://d.hatena.ne.jp/suzuchiu/>

短歌と写真

三上春海 (twitter:@kmhr\_t)

ブログ：稀な晴れ <http://d.hatena.ne.jp/kamiharu/>

表紙イラスト・デザイン

.あいあ (twitter:@dot\_aia)

編集・発行

稀風社 <http://kifusha.hatenablog.com/>

連絡先 [suzuchiu@gmail.com](mailto:suzuchiu@gmail.com) (鈴木)

印刷・製本

株式会社 ポプルス



